

2018年12月10日

あおぞら投信株式会社

## 「今までと異なるバランス 描き出す

## 動的な 目線の光なり」

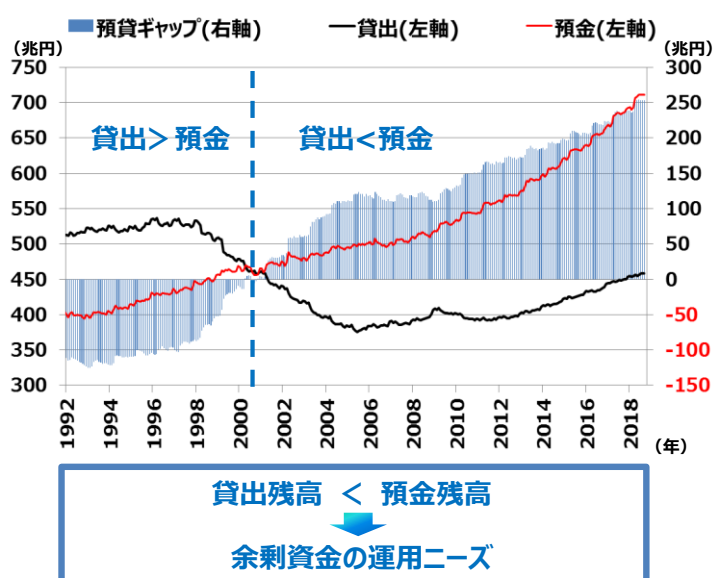
機関投資家にとっての有価証券運用は、その投資家自身の調達構造によって決められるものです。この調達から運用までを捉える考え方をALM(Asset and Liability Management: 資産と調達の管理)と呼びます。これまでALMと言うと、とかく運用サイドである資産へと目が向きがちでしたが、カギは調達サイドが握っているのです。

また、巷にALMが広がり始めたころは、資産の金利リスクに注目が集まっていたましたが、当然ながら信用リスクも含めた考え方が必要であり、それ以外にもオペレーションリスクなど、ビジネス全体を把握する必要があるといった方向に進んできています。さらに機関投資家が今後の有価証券運用を考えるとときには、バランスシート全体の中での位置づけをしっかりと定めていく必要があるのです。特に国内の低金利環境では、当然にグローバルなALMの考え方が求められ、そこでも外貨を含めた調達構造が重要な要素になります。Managementは日本語では“管理”と訳されますが、ALMのように2つの大きな要素が変化をするという意味では、動的な変化対応が必要であり、この点が今後の運用のパラダイムシフトを呼ぶのではないかと思います。例えば、銀行であれば資産の中には貸出という大きな項目が存在することが前提でALMについて考えられてきましたが、今後は資本配賦\*についても大きな見直しが必要なのだと考えます。

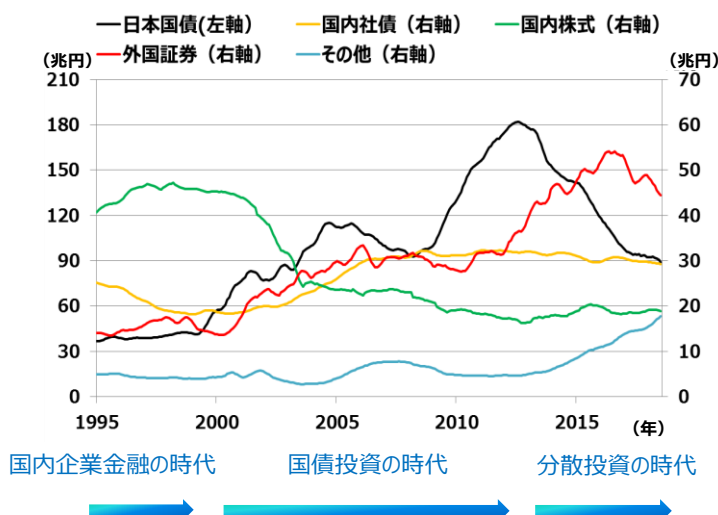
\*資本配賦: リスクを許容できる範囲内に収めることで経営の健全性を確保する仕組み。

柳谷俊郎

国内銀行の貸出残高と預金残高の推移



国内銀行の有価証券投資残高の推移



出所: 日本銀行およびあおぞら銀行のデータを基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>